

ナイトメイヤー意見交換会 議事要旨

1. 名 称：ナイトメイヤー意見交換会
2. 日 時：2018年11月26日(月)10:00-11:30
3. 場 所：ベルサール東京 日本橋 Room E

我が国におけるナイトメイヤー制度等のあり方について知見を得るため、推進に関わる役職であるナイトメイヤーとしての実績があり、推進の仕組みに関して知見を有する海外有識者（Mr.Mirik Milan Gelders）をお招きし、意見交換会を行った。以下、その要約。

4. 概 要

1) Mr.Mirik Milan Gelders の主な発言内容

- 都市は活気のあるナイトライフをもつことによって社会的・文化的・経済的な利益を享受することができる。またナイトタイムはさまざまなクリエイティブな才能が出会ったり生まれたりする場でもある。そのようなクリエイティブな才能をもった人たちが自らを表現し、またそこで育っていくための場を作っていくことが重要である。
- オランダにおけるエレクトロミュージック、テクノミュージックなどの経済規模は年間8億ユーロと言われている。しかし、活気のあるカルチャーをお金で買うことはできない。一から育て、発展させなければならない。つまり、非常に大規模な産業であったとしても、小さなところから始めなければならない。
- 活気のあるナイトライフを培うためには、チェンジメーカー（創造性をもってモノを作る人）、クリエイティブな空間（ライブハウス、美術館・博物館、文化施設等）、政策的・社会的な枠組み（営業時間、公共交通機関、予算確保等）のパーフェクトミックス（完璧な組み合わせ）を作っていかななくてはならない。
- ナイトメイヤーは独立した非営利組織であり、生き活きとしたナイトライフを実現するために活動しており、地方自治体や中小を含む企業や住人たちのかけ橋となるべく尽力している。関係者（ステークホルダー）の間のナイトライフの調整を行うとともに、住民の理解を得ることにより社会を変えていく役割を担う。
- 何かを変えていくためにはすべてのステークホルダーを巻き込まなければならない。中でも一番重要なステークホルダーは政治である。まず都市にとって何が必要とされているかチャンスや課題を把握し、ステークホルダーを結び付けていくことが必要。次ぎに必要な議題を設定し、政策が決まった後には新たな規制が設けられ、サブカルチャーの醸成を図っていくことになる。
- ナイトライフに関する活動を行うオフィスは世界 45 箇所にあるが、そのすべてがアドボカシーとして支援を行う役割を担っている。これらの組織は法規制を変

えたり、施策を導入する権限は持っていないが、都市の代表等と協力し、よりよいナイトライフを都市に培っていくための活動を行っている。彼らは、ナイトライフのビジネスを行っている人たち、またその都市に住んでいる市民や政策立案者と非常に強い関係を持っている。

- ナイトメイヤーという制度を都市に導入することではなく、何らかの形でその都市において、よりよいナイトライフに関係する政策を導入し、よりナイトタイムを活気づけていく取組を行っていくことが重要である。
- 現在我々はナイトメイヤーの活動に関して数値的な指標を使った調査（カルチャー（文化）とコミュニティ、公的な場の秩序と安全性、社会にもたらす影響、経済的な影響が調査対象）を行い、その結果をまとめている。調査結果を使い、他の都市が同じような取組を行う際の指針にしてほしい。
- 地域の安全性と公共の秩序を保つ取組によって、地域の夜間営業を行っている事業者が恩恵を得るだけでなく、より文化的な活動を地域にもたらすことができ、その地域・市も恩恵を得ることができる取組の成果を示すことによって、市民に対しても、なぜナイトライフ経済を発展させていきたいか、なぜそれが重要かを納得してもらえるようになる。
- 女性にとってのナイトタイムの安全性の担保やマイノリティであってもナイトタイムを楽しめることが重要と考えている。また、活気のあるナイトライフの提供は都市における孤独感の解消に貢献できるのではないか。
- クリエイティブフットプリントという組織を立ち上げ、指標を使って都市にあるクリエイティブな施設の評価を行う活動（都市におけるクリエイティブな空間に対する定質的定量的な調査）を行っている。産業の発展のためには、クリエイティブな空間に関する情報を把握する必要がある。多くのステークホルダーを調査した結果、クリエイティブな空間がどこにあるか把握できるようになり、観光客に対しユニークな情報を提供できるものと期待される。
- 都市のナイトライフ形成の達成のためには、いくつかの重要な要素がある。
 - ・感情的になるのではなく事実を根拠に関係者に働きかける
 - ・設備でなく品質に着目して投資する：
地域にスポットがあることにより地域に独自性が付与される。ナイトライフと言うと大きな施設を考えがちだが、大規模である必要はなく、むしろユニークなサブカルチャーを醸成してくれる施設が重要
 - ・失敗を恐れずイノベーションを起こしていくこと：
ナイトタイムの政策に関しては、新しいことを導入することが多いため、パイロット的な取組を行い、そこからデータを得ることで、次のステップでは必要に応じ調整し、適切な形で展開することが重要。
 - ・組織が効果的に機能するための組織内のトップダウンやボトムアップ構造

- ・ 政府内外で権利獲得役割を果たせるようにする：
ナイトメイヤーの重要な役割はアドボカシーであるため、導入の際は自治体・議会の外側においても内側においても役割は変わらないことが重要。
- ・ あらゆる意味合いでクリエイティブスペースを保護する：
経済成長を進めてくことや、若い才能を育成するなどして都市の安全性を高めるためには、都市のコンテンツ・文化に焦点を当て、高めていくこと、またそこに関わる全ての人々が参加して推進していくことが必要。

2) 質疑応答

- 1-a) ナイトメイヤーにはどのようなものが求められるか、その具体的な要件を教えてください。(スキル、捉え方、姿勢などナイトメイヤーと同様の立場となる方にはどのような役割が求められるか)
- 1-b) 一つ目に産業と行政の双方の架け橋となれる存在であること。同じ言葉で話し合えるよう支援ができること。二つ目に行政の中にいるかどうか。行政の内と外において同じ言葉を使いコミュニケーションを手助けできる役割を担えること。より具体的にいうとビジョンがあり、特に行政の理解を得るためにシンプルな言葉で伝える能力も必要。つまり、ビジョンと、そこに向けた実行の間のステップの橋渡しの役割も求められる。

- 2-a) 日本はナイトタイムエコノミーを推進しようとしているところだが、スタートする段階で障害となったことは何か。それをどうやって打ち破ったか。
- 2-b) 障害は多くあったが、まずは信頼関係づくりに苦労した。行政や政治家、投資家とともに市民からの信頼も得る必要がある。ナイトタイムのイベントやパーティーをただ単に行うだけでなく、クオリティーの高い形で提供することを市民らに理解してもらう必要がある。また住民の声に耳を傾け、導入する地域の住民のニーズも理解する必要がある。その上で地域の警察や行政とのやりとりを行う必要がある。実際に大きな変化を起こすことよりも、そういった小さなステップを少しずつ踏んでいくことが重要であり、大変な点でもあった。

- 3-a) 日本では保守的な高齢者や子育て層の反対が想像されるが、それに対しどのように説得したらいいのかという方法論がもしあれば教えて欲しい。
- 3-b) 地域にナイトライフを持ち込む際、ただ楽しむ場を作るだけではなく地域に経済的なエコシステムをもたらすことを説明する必要がある。導入実績として迷惑行為が30%弱減少したというファクトを紹介することも説得力が増す。ただ安いお酒を提供して、うるさい人たちが集まる場を設けることでなく、質の高く

マナーを守れるような人たちが集まるようなコンテンツを提供できる場所であることを、ビジョンを持って示す必要がある。反対の声はどここの地域においても出てくるため、抑えることというのは完全にはできないと思う。ただ、都市部ではバランスをとることも必要。今のままでは改善されないが、このような施設を作ることでこのように改善されたという実績を紹介しつつ説明することが重要。それと同時に地域のニーズを特定し、ニーズに応えるようにするのも重要なステップである。ステップを段階的に踏む必要があるので、簡単に納得してもらうのは難しい。

- 4-a) 2つの経済的成功を導いた例について訊きたい。アムステルダムダンスイベントは約20年で約40万人近く、世界85カ国から集まっている。トップDJ100人の内、オランダは25人輩出しており、世界の4分の1以上を占めており、経済的に成功している。1つ目の質問は、このような経済的成功はどのようにしてなされたのか。また、2つめの質問として、ナイトメイヤーはこの関わりの中でどのような働きかけを行ったのか。
- 4-b) さまざまな要素が関わり成功に至った。大規模ダンスイベントでの成功の理由の一因は、オランダはエレクトリックミュージックを積極的に推進し文化として培ったことだと思う。イベントでは5日間に渡りアムステルダム各地で500以上のパーティーが開催されたが、文化を適切な形で組み合わせる政策や政策枠組みなど活用し適切な運営を行えた。2つめの質問に対して、大規模イベント開催にあたり、行政やイベント主催者との連携が大切であった。市はイベント主催者に対し、通常の朝4時までの営業許可ではなく、朝8時までの営業許可を出すにあたり、泥酔客への対応等スタッフに対する研修、交通整理や運営方法など特別な施策を出すとともに適切な管理を求めた。また、公式な手順を踏まなくても営業許可が取れるようになり、行政側も手間をかけない形で行うことができた。これにより、施設側、行政側双方にメリットがあった。

以上